

21世紀を目指し

大阪は変わるか!?



新しい胎動の組織には新しいヴィジョンが必要だ!

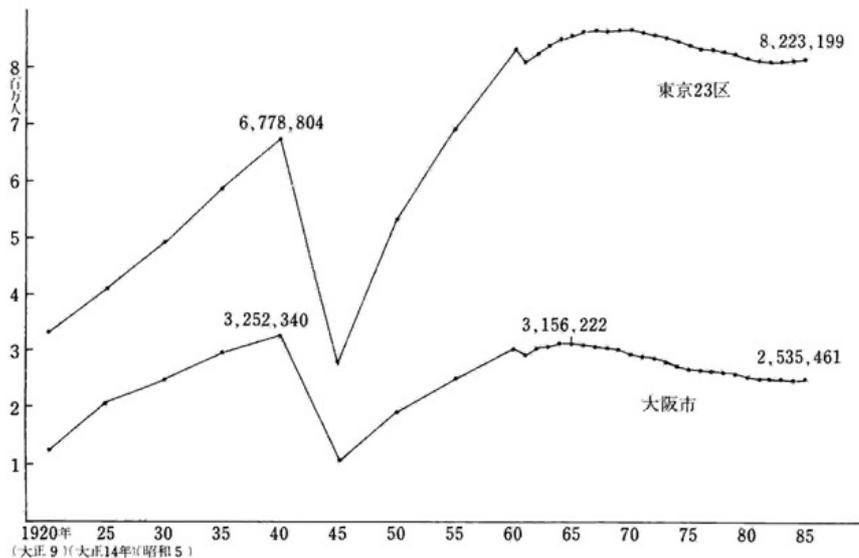
大阪では現在、大阪21世紀計画というプロジェクトが進行中である。が、大阪にとって21世紀のテーマとは何なのだろうか。大阪に限らず、21世紀という言葉のもつイメージ喚起力は、それがほんの15年後になってしまっただけに、ますます衰微している。高度成長時代に小学生向けの雑誌『学習』と『科学』の中で描かれた未来像は、現実には到底具体化されそうもない。巨大な透明なドーム

で蓋われた都市の中にチューブ状の道路があり、そこをエアカーが走るなどという光景が21世紀の大阪に実現するわけではない。

そこまで極端な話は別としても、今や国際都市として世界に確固たる地位を築きつつある東京=TOKIOと比べた時、大阪が目指すべき姿はどんなものなのか。世界の東京に対するアジアの大阪か、あるいはあくまで東京に次ぐ第2の国際都市か、大阪は“OSAKA”になるのか、その辺の具体的なヴィジョンが大阪に欠けているように思える。

人口のうえでは大阪市はすでに横浜市に抜かれ、日本第3の都市である。横浜の人口増は緑区が東京の郊外として肥大化したことによるもので、都市化とは関係がないにしても、大阪のポルテージのダウンが救われるわけではない。大阪の人口のピークは戦前であり、戦後一度もそれを抜くことができなかったという事実は、大阪がいかに古い都市であるかを物語っている。21世紀を睨んだ計画を立てるのも、古い体質が残って

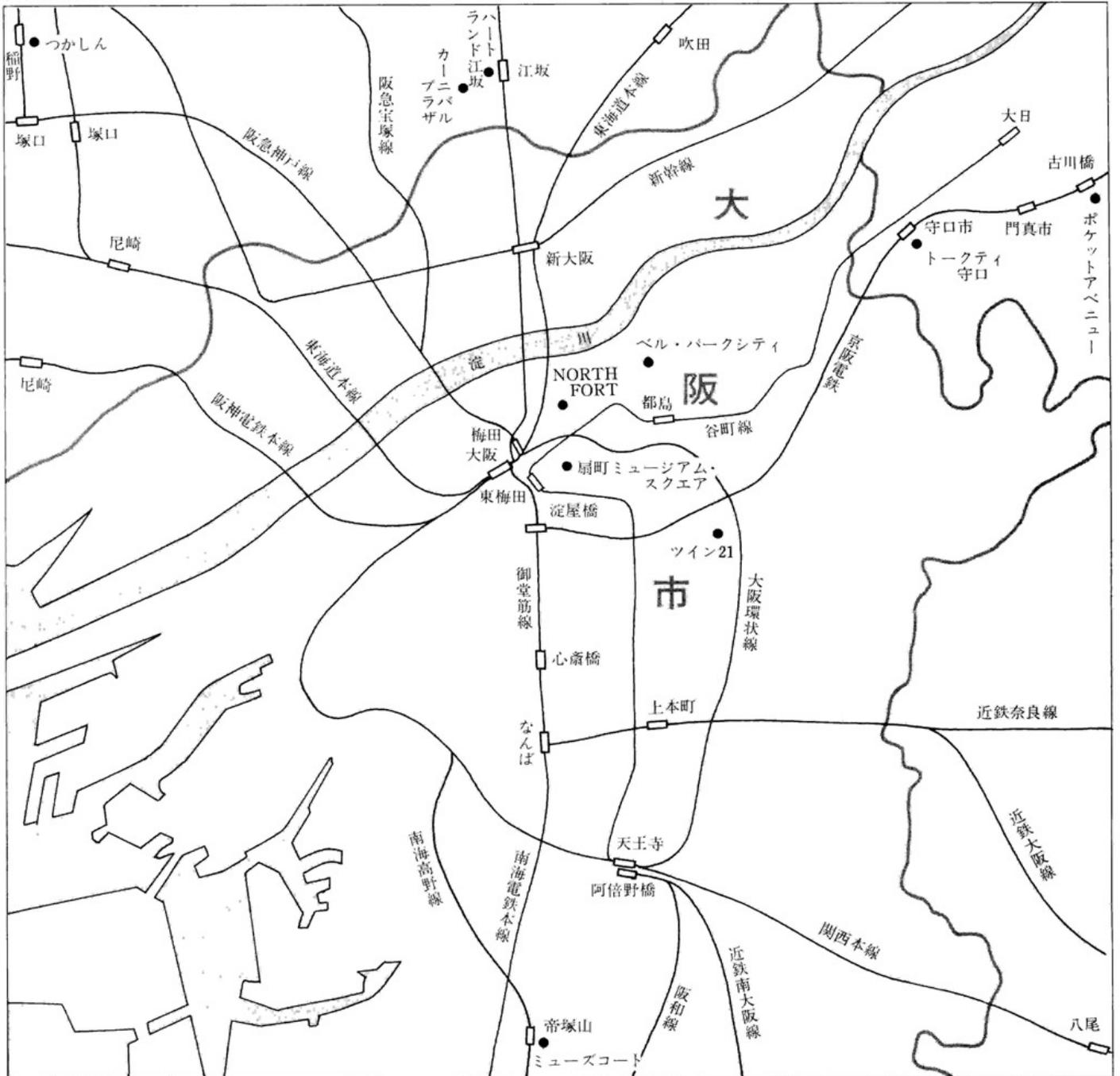
大阪市と東京23区の人口の推移



注) 1960年までは1月1日、61年以降は3月末日の数字。

自治省『住民基本台帳』

大阪市概略図



いればこそだと言えなくもない。

大阪が東京と比べて旧態依然としていることの原因のひとつは、大阪では東京のような“都心”の移動が

なかったことだろう。行政機能は中之島、商業機能は心齋橋、なんば、天王寺、梅田という図式はずっと変わらない。今でも大阪のメインストリートは御堂筋である。東京でいえば上野、浅草、銀座といった戦前の繁華街がそのまま今もイニシアチブを握っていることになる。

21世紀を睨んだテーマの下、果たして大阪は変わるのか、変わるとすればそのイニシアチブをとる拠点は

ヒルビルの向こうに建設中の



どこか、変化のベクトルを探るために、この1、2年の新しい動きをピックアップした4つのリサーチの結果を報告する。

大阪駅前の超高層ビル群



ノン・セグメント

密集ストリート・心齋橋

本誌が毎月、東京で行なっている「定点観測」は、渋谷・新宿・原宿というヤングパワーが集中する3つの街の性格と、今一番新しいファッショントレンドを追うのに極めて有効な手段である。その「定点観測」を今回、大阪でも試みた。観測地点として選んだのは心齋橋筋のほぼ中間点、周防町筋との交差点付近である。心齋橋筋は大丸、そごうといった百貨店、パルコ、バルなどのファッションビルとともに左右に専門店の立ち並ぶ、大阪でも有数の人通りの多い商店街である。この通りを心齋橋からなんば方向へ歩く人々をカウントした。カウント対象は男性・女性通行人と女性スカート着用者、ファッションアイテムとしてはリュックを持つ男女を選んだ。

ストリートとしての心齋橋は、公

園通りや表参道と比較すると、人々が密集し、それがものすごい勢いで流れている。街の空気を味わいながらそぞろ歩くというより、目的地へ足早に突き進んでいく感じだ。その中にはあらゆる属性の人がいて、老若男女、ファッション高感度人間から浮浪者まで実に色とりどり。原宿が中高生の街、渋谷が高感度なヤングの街だとすると、心齋橋はその密集、ゴック煮度に特徴がある。しかし、この心齋橋筋とは対照的に1本東の通りに入ると人影もまばらだ。ヨーロッパ村と呼ばれる地域にもかかわらず、である。大阪の路地裏文化は未だ育たずの感がある。

男女のリュックについては本誌85年10月号の定点観測でトレンドアイテムとして取り上げた。当時は渋谷で、全通行人の約1.0%がリュック

- 1986年2月8日 土曜日
午後1:30~2:30 1時間
- 大阪 晴・最高気温 5.7℃
東京 晴・最高気温 3.4℃
- カウント地点
心齋橋筋・周防町筋交差点
渋谷・パルコ本館前
- カウント対象
男性通行人
女性通行人
女性スカート
男女リュック

であった。今回、同時定点を試みた渋谷ではリュックを持つ人はさらに2.6%に増加し、トレンドアイテムがグンと拡がりつつあることを示唆している。心齋橋では全通行人3,310人中リュックを持っていたのは30人で約0.9%、半年前の渋谷と同じくらいにしか浸透していなかった。しかも、東京では10代のヤングのアイテムであるのに対し、心齋橋では20代の綺麗な女性が、黒の革のリュックを女っぽいスーツなどに合わせて



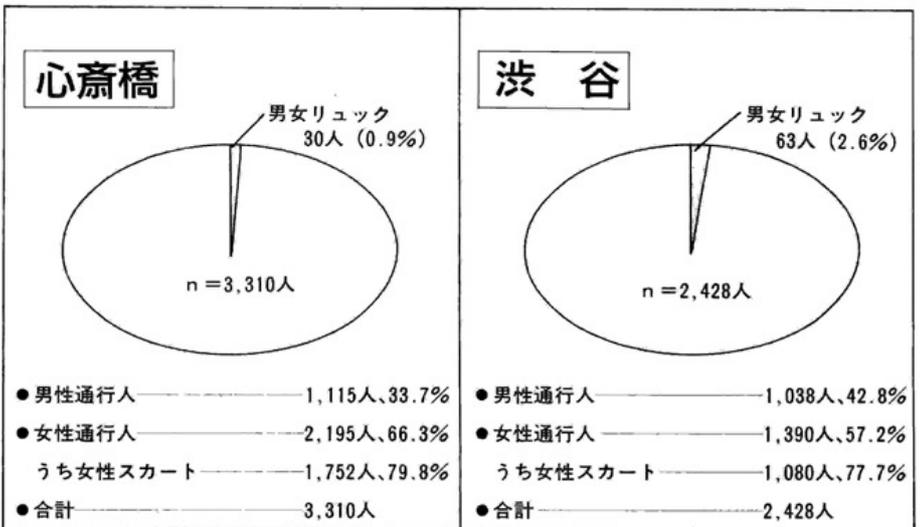
●全身黒づくめファッション ●燕尾服調の変形スーツに白のリュックを合わせる ●ジャケット2枚重ねのトレンドは24、5歳？ ●オシャレな男がホンマに少ない大阪や ●地味目の多い中ではこれくらいでとても目立つ

持っているのが目立ち、10代のオリ
ーブ少女やポパイ少年のリュックは
ほとんど見られなかった。

リュックが東京に較べてパワーが
今ひとつだったのに対し、大阪独自の
アイテムもあった。黒のスエード
のロングブーツである。トレンド人
間ほどその着用率は高く、またくる
ぶしまでのアングルブーツも多い。
黒のミニスカートにロングブーツと
いう人や、トップから見ると絶対白
いストッキングにパンプスだ！と思
える人が、やはりブーツだったり
という具合だ。観測地点の前の明治屋
(靴屋)はブーツ30% OFF のバーゲ
ンをしており、店員もブーツだった。

大阪ファッションを世代的に見る
と、ティーンのパワーはまだまだだ。
18歳ぐらいの少年が頑張っ
てはいても、頬の赤いのがぐり頭だ
ったりして微笑ましい。ファッション
ブルビーブルはやはり20代中心で
トレンド派はほとんど22、3歳以上。
ただしトレンドといっても一番過激
に見えた白の短めコートに黒のヘア
バンド、ミニスカートに柄タイツの
人でも原宿であれば何人もいよう
なタイプなので、全体的におとなし
めのファ

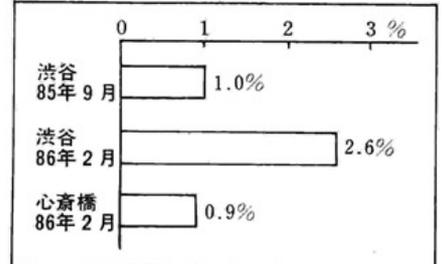
カウント結果



ッションが主流で、奇抜、奇怪な人
は少ない。宝島少年少女アイテム古
着ジーンズ+デカ靴でも、本人の雰
囲気はむしろJJだったりする。40
代、50代のおじさん、おばさんは、
東京よりもむしろオシャレかなと思
えるぐらい小綺麗で、毛皮の女性も
多かった。

原宿、渋谷に多いパステルカラー
や淡いトーンを着た人が少なく、カ
ラー・オン・カラーの人の組合せ方
が東京より微妙に派手な印象を受け
る。黒いコートに真赤なマフラー、
赤真な靴とか、白のコートに赤いマ
フラーといった具合に、アクセント

男女リュック率の比較



カラーを赤にする人が多い。その反
面、東京で目立つブルーは少ない。
人の集まる場所が地下街やアーケ
ードが多く、空の少ない大阪では淡
色やブルーより、暖かみがあって強
烈な赤の方が、街自身の持つ密集
した雰囲気によくマッチするようだ。



● スエードのダボダボロングブーツが大流行 ● フェイクファーのミニスカートにもブーツ ● 赤のブーツでアクセントをつけるワンレングス娘 ● 密集した人々が足早に通り過ぎてゆく心斎橋筋

INTERVIEW

キタで買物するエレガンス派



▶プロフィール
22歳・会社員 / 171 cm・56kg / 阿倍野に家族と同居 / 1カ月のファッション代は決まっておらず0~10万円までさまざま。

▶今日のアイテム
ジャケット 黒/革/エストワン / ¥87,000 / 61年1月購入 トレーナー 黒/コムサ・デ・モード (なんばシティ) / ¥7,000 / 60年冬購入 スカート 赤/スエード/ワコール (エストワン) / ¥19,600 / 今年1月購入 ブーツ 黒/スエード/エストワン / ¥19,800 / 60年秋購入 マフラー 黒地の縞/ウール/ケンゾー (阪神) / ¥8,000 / 60年秋購入 リュック 黒/スエード/エストワン / ¥5,900 / 60年秋購入

22歳という年齢よりはずっと大人っぽく見えた人。阿倍野に住んでいながら近鉄ではめったに買わず、もっぱらキタで買い物するという。神戸エレガンスっぽい雰囲気を好んでいて、いつのまにか自分の中でキタとミナミを差別化しているようだ。特に阪急ファイブが好きで週1回は必ずのぞく。1~2カ月に1度はミナミのマハラジャへ。ドライブが趣味で、千里の緑地公園あたりによく行く。5月には東京ディズニーランドに行く予定もあるそうだ。

ディスコがファッション情報源



▶プロフィール
20歳・大学生 (経済専攻) / 175 cm・64kg / 神戸市にひとり暮らし (東京都出身) / 1カ月のファッション代は5万円

▶今日のアイテム
ジャケット ベージュ/綿/ダルチザン (アメリカ村) / 60年冬購入 セーター 黒と赤の縞/ウール/ジルボー/もらった シャツ グレー/綿/ジョルジョ・アルマーニ (ヨーロッパ) / ¥20,000 / 60年秋購入 ジーンズ 紺/デニム/トゥーシェ (アンロワイヤル) / ¥21,000 / 60年夏購入 ブーツ 黒/スエード / ¥20,000 / アメリカ村の靴屋 バッグ ベージュ/合皮/カステルバジャック (大丸) / ¥13,800 / 60年春購入

絶頂期には3日に一度、今でも月に3回以上はディスコに行くというディスコボーイ。お薦めはウメダのマハラジャと、あまりはやってないがハイセンスだと思う周防町筋のアマゾンクラブ。当然、ファッション情報もディスコ中心で、夜の周防町と、ディスコ帰りの客が立寄る英國屋などから仕入れている。ただ、今の大阪はディスコ一辺倒にパワーが集中しすぎていて面白くなくなってきたので、もっと多目的スペースや劇場があればいいと言っていた。

金に糸目をつけない男モデル



▶プロフィール
20歳・大学生 (法学専攻) / 178 cm・66kg / 住吉区にひとり暮らし (大阪市出身) / 1カ月のファッション代は50万円前後

▶今日のアイテム
コート 黒/綿/ムッシュニコル (なんばシティ) / ¥70,000 / 61年1月購入 ジャケット 青/綿/アーストン・ポラージュ (ブランタンなんば) / ¥42,000 / 60年12月購入 セーター 黒/ウール/ムッシュニコル (なんばシティ) / ¥38,000 / 61年1月購入 ジーンズ 青/デニム/インターナショナルマーケット (アメリカ村) ブーツ 黒/スエード / マリン / ¥19,800 / 60年12月購入 バッグ 黒/合皮 / ¥28,000

雑誌のモデルをしていて、週に1度東京に来ており、月収が70~100万円という (雑誌の名前はどうしても教えてくれなかった)。そのうち50万円前後をファッション代に費やしている。遊びに行くのはマハラジャやパトーナといったディスコか、ユークラブ、セカンド・バー、クック・ドゥー・ドゥーといったバーである。DCブランドのかたまったビルや、ブティックがもっと大阪にも欲しいという、外身も中身もファッションファッショニストな男である。

大阪版JJソフィスティケイティッド



▶プロフィール
21歳・会社員 / 162 cm・43kg / 住吉区に家族と同居 / 1カ月のファッション代は5万円

▶今日のアイテム
ジャケット 黒/ウール/ケティ (和歌山) / ¥30,000 / 60年秋購入 カーディガン 黒/モヘア/コルディア (和歌山) / ¥40,000 / 60年12月購入 スカート 黒/ウール/ワークショップ (和歌山) / ¥28,000 / 60年12月購入 靴 黒/革/メルローズ (名古屋) / ¥38,000 / 60年11月購入 セカンドバッグ 茶/合皮/ルイ・ヴィトン (高島屋大阪店) / 価格不明 / 58年購入 ゴールドのネックレス アメリカで購入 ベルト・時計 もらいもの

ショッピングによく行くのはバルで週1回のペース。あと1カ月に1度くらいは東京にも行く。ファッション情報は、『エル』『アンアン』などの雑誌からで、毎週欠かさず読んでいるそうだ。ブランドも大好きで特にメルローズが好きだが、近頃は大阪でもブランドは充実してきているのでこれで十分だと思っている。彼女もやはりディスコ派でミナミのマハラジャによく行くとのこと。JJソフィスティケイティッドのエレガンスの極致を目指すお嬢様だ。

INTERVIEW

遊べる雑貨屋が欲しい



▶プロフィール
24歳・会社員(ヤマトインターナショナル) / 146cm・?kg / 住吉区に家族と同居 / 1カ月のファッション代は2万円

▶今日のアイテム
コート 紺/デニム/45RPM(京都ダイヤモンドビル) / ¥20,000 / 60年11月購入 ポロシャツ 青と白の縞/綿/45RPM(プランタンなんば) / ¥9,800 / 今年1月購入 Tシャツ グレー/綿/バツ(阪急) / 59年夏のバーゲンで購入 パンツ ベージュ/綿/ハーフ(プランタンなんば) / ¥6,900 / 60年9月購入 スニーカー 白/フォルチ(エストワン) / 60年8月購入 バッグ 革/黒/阿倍野のかばん屋さん

服飾デザインを担当しているというだけあって、ファッション情報は同僚からや、出張で展示会を見に行く際に東京の街から仕入れているという。アメリカ村は若い子ばかりだが、大阪で今後期待できる街は帝塚山だろうとのこと。東京と較べて大阪の人は損得中心で生活に遊びの部分を持たないの、おしゃれな雑貨屋さんが少なくて残念だという発言があった。小柄ながらも、自分のイメージにぴったりの少年っぽいファッションを若々しく着こなしていた。

アメリカ村愛するアンチブランド



▶プロフィール
20歳・会社員(アパレルメーカー) / 160cm・49kg / 尼崎市に家族と同居 / 1カ月のファッション代は3~4万円

▶今日のアイテム
ジャケット 茶/ウール/アンディ(エストワン) / ¥42,000 / 60年10月購入 ジージャン 青/デニム/高校生の時、家の近くで購入 セーター 黒/ウール / ¥2,900 / 60年11月購入 ジーンズ 青/デニム/ジョイント(梅田) / ¥8,800 / 60年8月購入 靴 茶/革/家の近所の靴屋 / ¥9,800 / 60年12月購入 リュック 茶/スエード/阪急ファイブ / ¥6,900 / 60年10月購入 スカーフ グレー/シルク/もらいもの

キタ、ミナミとも週1回は見てまわるが、特に気に入った店、ブランドがあるわけではなく、むしろそういったものにはこだわらない方だ。アメリカ村はよく行くけど、ヨーロッパ村はあまり知らないという。大阪は街がゴミゴミしていて窮屈なので公園があればいいなあとの希望。小学校2年生までは東京都大田区で育ったが、最近は東京に行くのも3年に1回くらい。まったくのナニワっ子になりきったアンチブランド派のトレンド人間だ。

音楽のノリは東京がいい



▶プロフィール
21歳・大学生(音楽教育専攻) / 152cm・45kg / 吹田市にひとり暮らし(吹田市出身) / 1カ月のファッション代は5,000円

▶今日のアイテム
コート 黒/お父さんのをもらった セーター 黒とグレーの縞/イッセイミヤケ(阪急梅田店) / ¥14,000 / 60年冬購入 シャツ 白/綿/阪急ファイブ / ¥1,900 / 60年購入 ズボン カーキ/綿/山木屋(京都) オランダ軍の女性兵士用のもの / ¥5,000 / 60年12月購入 靴 黒/革 / 大國町の靴屋 / ¥5,000 / 60年秋購入 靴下 赤/もらいもの 手袋 黒/もらいもの 帽子 黒/歌小路ビル(京都)

心齋橋のヤマハ前でキャッチした2人連れのひとり。アメリカ村へはほとんど毎日やって来るという。「モーツァルトユーゲント」というエレポップのバンドを組んでいて、東京の鹿鳴館やラ・ママでもライブしたことがあり、今度扇町ミュージアム・スクエアにも出演する予定。ノイバウテンやレジデントズが好きで、生活もファッションもすべて音楽中心にまわっている。ライブの際、東京の方がノリが良く大阪の方でももうちょっとノって欲しいという。

ファッション独学の中学生



▶プロフィール
14歳・中学生 / 165cm・58kg / 東大阪市に家族と同居 / 1カ月のファッション代は決めておらず、お金のたまった時に買う

▶今日のアイテム
ジャンパー 黒/ウール/ウィークエンドマーケット(アメリカ村) / ¥1,000 / 今年1月購入 ジージャン 青/デニム/ウィークエンドマーケット(アメリカ村) / ¥5,800 / 今年1月購入 シャツ 茶/綿/ポッシュボーイ(プランタンなんば) / ¥12,800 / 60年10月購入 セーター 黒/ウール/ジュン(心齋橋) / ¥16,000 / 60年12月購入 ジーンズ 青/デニム/サンヴィレッジ(アメリカ村) / ¥6,800 / 60年夏購入

周防町筋をアメリカ村から心齋橋の方へ歩いていくところをインタビューした男の子は、とても中学生とは見えなかった。アメリカ村へは週1回は見に行くというが、ファッションは自分で考える。雑誌とか、遊ぶ場所を聞いても、よくわからないという感じではにかんてしまう。やっとファッションに興味を持ち始め自分で洋服を買うようになったところで、遊びはこれから覚えるのだろう。ショップは路面店の方が絶対面白いとつぶやいていた。

アーケードから飛び出せ! ヤング

定点観測でも明らかになったように、大阪のファッション化のための課題は、いかにしてヤングが心齋橋アーケードの密集の中から飛び出して、広く街をテリトリーとしてハンドリングするようになるかである。

心齋橋筋の両側には今、アメリカ村とヨーロッパ村という2つの新しい村ができて、大阪のヤングファッションのメッカになっている。特にヨーロッパ村の方はここ1、2年で急速にデザイナーズブランドのファッションビルが出現しはじめており、業界内部でも注目されている。昭和58年にパシュ、ケンショウ・アベなどの入った「ギャラリービル」がオープンしたのを皮切りに、59年にはジュンの「TO」、60年にビギのメンズを集めた「BIG I 1st」、ワイズの「スーパーポジション」、グラスメンズ、リネアフレスカ、アーストン・ボラージュを擁する「メリーレーン」といった具合で、デザイナーズの大坂における路面店展開が活発化しているのだ。アメリカ村とは異なり、ヨーロッパ村は高価格な品揃えで、ハイソサエティな客層をターゲットにしていると言える。

一方、アメリカ村の方は昭和42年頃に「ループ」というアメリカンスタイルの喫茶店ができたのをきっかけに、ショップが集まりはじめて現在のような形にまで広がってきた経緯をもつ。アメリカ村と呼ばれるようになったのは、いつ頃からかはっ

きりしないが50年代に入ってウエストコーストブームに乗り、サーファーマのメッカとなった。サーファーマの沈静化以後は、パワーを失いつつあったが、3年ほど前から大阪21世紀計画のヤングタウン作りやヨーロッパ村との連動によって息を吹

き返しつつある。

また、62年春には周防町通りと御堂筋の角地にビブレ21が進出予定である。ニチイはこのビブレを原宿店と並ぶ東西の拠点にしようと意気込んでいる。一方、心齋橋のアーケードも現在改装に向けて準備中であり、来年以降はアーケードの内と外の覇権が益々激しく争われることになりそうだ。

●アメリカ村●

路地裏展開が楽しいダウンタウン

アメリカ村の範囲は東は御堂筋から西は四ッ橋筋まで、北はホテル日航裏手、南は道頓堀川沿いまでと言える。メインストリートは周防町通りだが、南北に伸びた道沿いにかなり店の集積ができ、かなり離れた所にも店が散在している。

道頓堀川近くになるとラブホテルやキャバレーが多くなり、店の密度は低くなるが、アメリカ村を訪れた

ヤングは店を求めてどんどん突き進んでいく。ラブホテルもかなりファッション化されていて、いかがわしさはない。東京でもはやりの、1階がカフェになっているものもあった。

客層は15~20歳が主流で男女比は半々くらい。古着・ジャンク派が多い。東京でいうと原宿・竹下通り派である。2月8日(土)はそれほどでもなかったが、11日(火) (休日)はかな



アメリカ村入口の看板
サンビレッジのウォールペイント



宝島少年少女のメッカ・ウィークエンドマーケット
振り出し物の古着もいっぱい

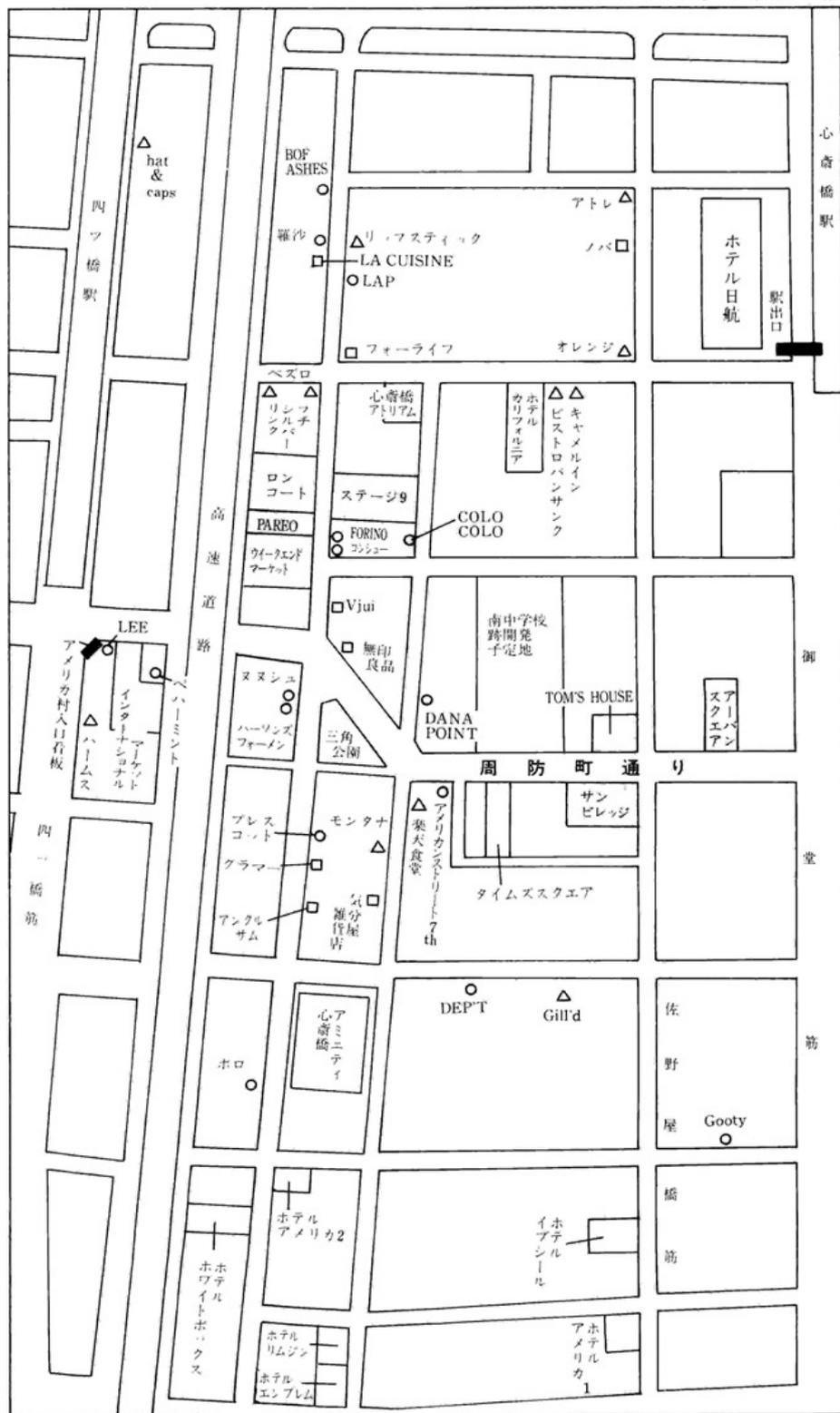


りの人出だった。

アメリカ村の魅力は、安くて面白いモノがいっぱいあって、それを自分のセンスで発掘していけるところだ。1,900円のトレーナーや3,900円のパンツを売る小さなショップがたくさん入った「インターナショナルマーケット」や「アメリカンストリート7th」などは中高生に人気だ。古着やアンティークアクセサリを売るテント小屋の集まる「ウィークエンドマーケット」は宝島少年少女の目が輝く。こうした大きな店の合間に、どうしても覗いてみたくなるような古着や雑貨の個性的な店が点々とちらばる。昨年オープンした「ロンコート」は、むしろ都会のファッションビル化しすぎて、アメリカ村にそぐわないし、無印良品の店もアメリカ村にある必然性が理解できない。「ステージ9」のマリリン・モンローの絵や、「サンビレッジ」や高速道路の下のウォールペイント、各店の看板やロゴのちょっと汚ない派手さが、アメリカ村にダウンタウンの味つけをし、ホテル日航のそびえる御堂筋のすぐ裏とは思えない怪しい空間をつくり出している。

アメリカ村マップ

○：衣料、△：飲食、□：雑貨その他



去年できたロンコート
パーソンズもできていた



●ヨーロッパ村●

シヨップ先走りだが今後に期待

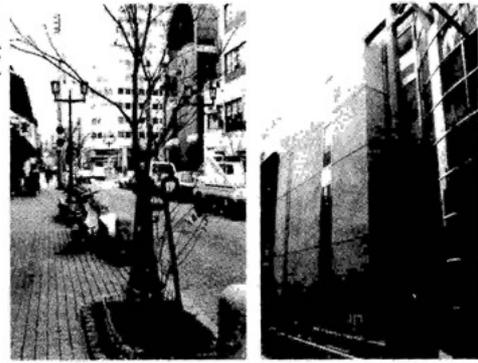
ヨーロッパ村は御堂筋から東の三休橋筋くらいまで、南は周防町通り、北は長堀通りまでが範囲。市の計画では、周防町通りを御堂筋から堺筋までの500mの区間で改装する予定だが、今のところは御堂筋と心齋橋筋の間の80mのみが改装されているにすぎない。

この改装は歩道を両側あわせて幅2.2mから5.5mに拡げ、舗石にアメリカ村とヨーロッパ村の動き

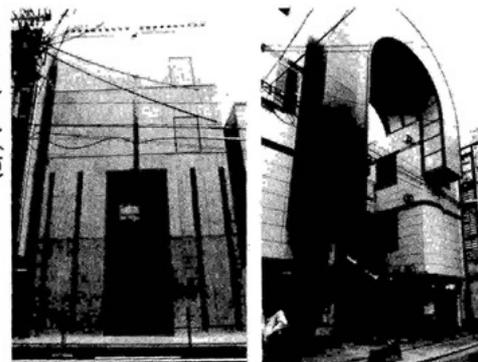
ンタロッキングブロックを使って石畳風にするというもの。さらにハナミズキの並木をつくり、ストリートファニチャーを置くなど“ファッションストリート化”がテーマだ。

実際見た印象では、とにかくまだ80mということで成否のほどは言えないが、車道が8.8mから5.5mに狭くなったうえに駐車するクルマが多いため渋滞がひどく、ダイナミック

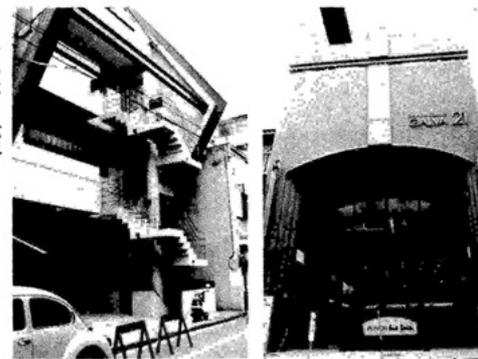
TO(右)
改装後の周防町通り(左)



スーパーパーポジション(右)
メリーレーン(左)



ギャラリィ(左)
ギャルバ21(右)



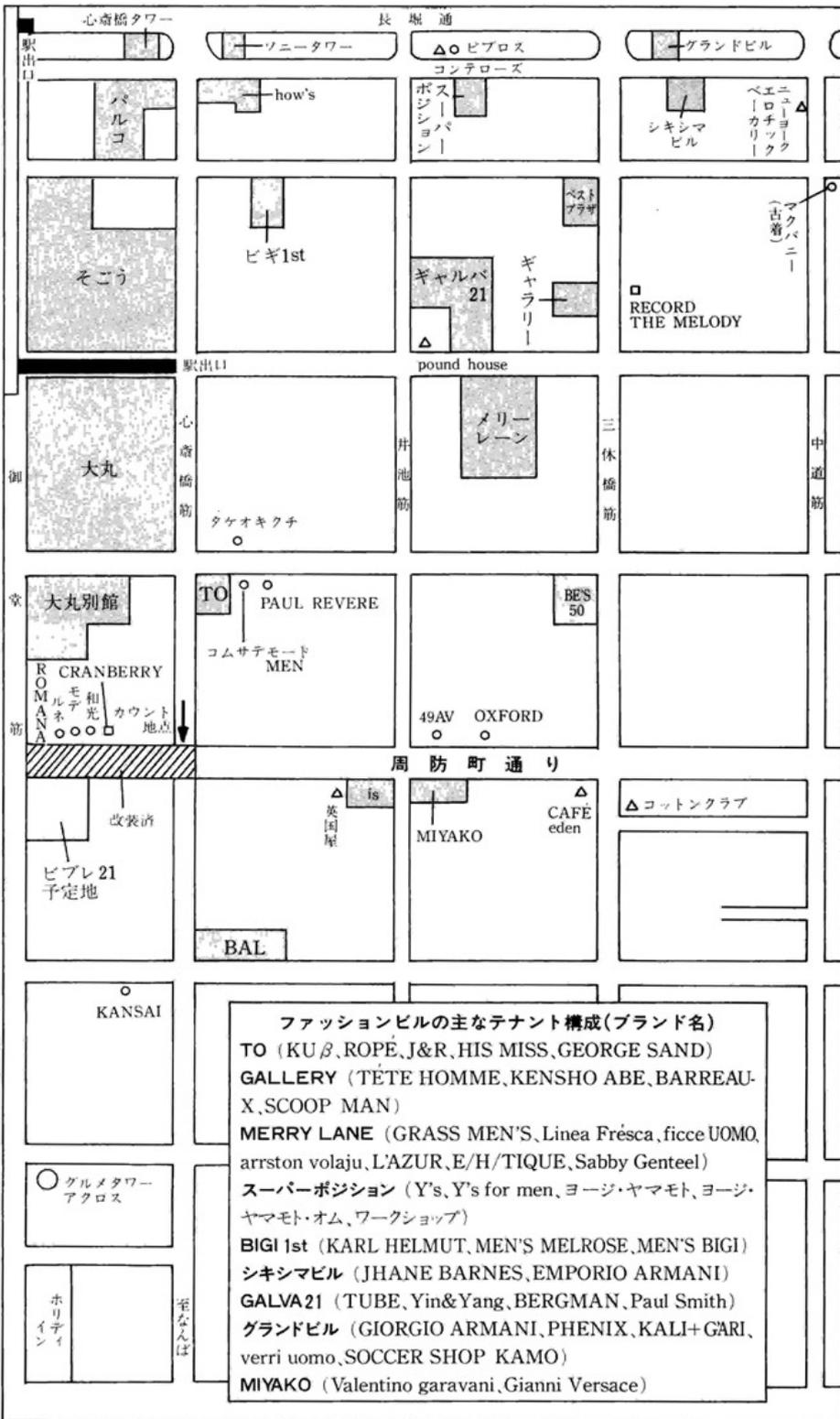
	アメリカ村	ヨーロッパ村	心齋橋周辺の動き
昭34			・心齋橋筋アーケード完成
42	・ループというアメリカンスタイルの喫茶店ができたのがきっかけ		
45			
46			・心齋橋バルコオープン(12/12)
50		・ブティック、喫茶店の進出始まる	
54		・ギャルバ21オープン	
56	・周防町通りを美しくする会発足(4月)	・周防町通り美化促進連合会発足(10/27)	
57	・ユニオン(商店会)結成(9月)		・ホテル日航大阪オープン(9/4)
58	・トムズハウスオープン(9月) ・無印良品オープン(10/28)	・周防町通り歩道拡幅工事 ・ユニークタウン宣言(11/26) ・ギャラリィビルオープン(12/7)	
59	・ユニークタウン宣言(4/28) ・ホテルカリフォルニアオープン(9/11)		・ブランタンなんぼオープン(1/14)
60	・パーソンズ・フォー・メン進出(2/8) ・ニューメディア放送局開設(6月) ・アメリカンストリート7thオープン(9月) ・ロンコート第一次オープン(9月、11月全館オープン) ・四ッ橋筋にヴィクトリア進出(10/10)	・T O 館オープン(10/31) ・how's オープン(6/8) ・BIGI 1st オープン(9/13)	
61		・メリーレーンオープン(11/8) ・スーパーパーポジションオープン(12/12)	・心齋橋筋アーケード改装
62			・心齋橋ヒブレ21オープン(春)

クナストリートという感じがなく、なにかチマチマしている。車道と歩道の幅がほぼ同じというのは道としてカタワだ。クルマこそが動くストリートファニチャーだという認識がない。現在走ったり駐車したりしているクルマにもバンやワゴンが目立つ。クルマを見せる場になっていないから、カッコイイクルマが通らないのだ。道沿いの店はストリートと調和して文字通り“ヨーロッパ的”な街並みを創出しているだけに残念だ。

メリーレーン、ギャラリィ、スーパーパーポジションといった拠点は皆、心齋橋筋より1本東の井池筋ともう1本東の三休橋筋の間にある。心齋

ヨーロッパ村マップ

○：衣料、△：飲食、□：雑貨その他



アメリカ村のように何となくブラ
 つくだけで面白いというには程遠い。
 すべてがすべて、真新しい人工的な
 街にする必要はないが、ヨーロッパ
 村としてアピールしてゆくのなら、
 今ひとつ何かここにしかない、ヨー
 ロッパ村に行けばコレがあるという

ものが欲しい。ヨーロッパ村として
 どういう街をつくってゆくのか、ど
 んな人間を集めたいのか、そういう
 マクロな視野を持って開発すべきだ。
 DCブランドの服だけなら梅田でも
 なんばでも百貨店で買ってしまうの
 だから。



ヨーロッパ村を歩く男6人連れ



古い店もたくさん残っている



ビブレ21進出予定の駐車場

橋筋からゾロゾロと東側の筋へ歩いてくるヤングが結構たくさんいる。しかしその多くは、心斎橋駅を降りてすぐにヨーロッパ村に飛び出してくる感じで、アーケード内とヨーロッパ村を行ったり来たりブラブラするという感じではない。

それもそのはずヨーロッパ村は、もともと古い食堂、割ぼう、飲み屋、キャバレーなどのあるところで、そこにポツポツとナウイ店ができはじめたという状況だから、街をブラブラ見て歩いて楽しい感じはしない。目的をもって駅から突進し、目当ての物を買ったらアーケード内へまっすぐ戻るというのがヨーロッパ村の客の行動パターンではなかろうか。